授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
基礎ゼミ	1	必修	1年　前期	演習	全専任教員

〔授業の到達目標及びテーマ〕

1．短期大学での学習の仕方および幼児教育学科の学生にふさわしい生活の仕方や態度を身につける。

2．さまざまな自主活動に取り組み、主体的に集団活動ができるようにする。

〔授業の概要〕

全体での指導、ゼミごとに分かれての活動、個人面談等、そのときどきの課題に即した形態で実施する。

〔授業計画〕

第１回　オリエンテーション　～「基礎ゼミ」の意義と方法
第２回　「教育実習」説明会
第３回　個人面談　①
第４回　個人面談　②
第５回　自主活動　①
第６回　自主活動　②
第７回　特別授業期間の計画
第８回　特別授業期間の活動報告
第９回　自主活動　③
第10回　レポートの書き方　①
第11回　レポートの書き方　②
第12回　前期の学習のまとめ①
第13回　前期の学習のまとめ②
第14回　夏休みの課題について　①　全体ガイダンス、計画作成
第15回　夏休みの課題について　②　計画の点検と実施の準備

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

全般的な参加の姿勢と課題達成度により評価する

〔テキスト〕

指定しない

〔参考書・参考資料等〕

生活技術教育研究会『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎　－講義・実習・生活のマナーを学ぶ－』（ななみ書房）

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探求ゼミ	1	必修	1年　後期	演習	全専任教員

〔授業の到達目標及びテーマ〕

進路選択も見据えながら、自己の課題はなにか、自己を高めていくためにはどのようにすればよいのかを探求する。

〔授業の概要〕

1，創意工夫し、協力して学園祭に取り組む。
2，教育実習・保育実習の準備、教育実習の振り返りを行い、実習指導を補う。
3，実習評価の伝達、進路について等個人面談を行う。
4，担当教員および学生の自由意思により、さまざまな学習活動をする。

〔授業計画〕

共通事項

第１回　夏期休暇中の課題についての報告
第２回　秋桜祭に向けて　①
第３回　〃　②
第４回　〃　③
第５回　教育実習に向けて　①
第６回　〃　②
第７回　〃　③
第８回　教育実習を終えて　①
第９回　〃　②
第10回　進路就職ガイダンス　①
第11回　〃　②
第12回　保育実習に向けて　①
第13回　〃　②
第14回　学習のまとめ　①
第15回　〃　②

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

取り組みの姿勢および課題達成度により総合的に評価する

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

基本的に「基礎ゼミ」の構成を引き継ぐが、状況によっては部分的な編成替えもあり得る。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本語表現演習	1	必修	1年　前期	演習	兼任講師　安西 晋二

〔授業の到達目標及びテーマ〕

日記、手紙、レポート、エントリーシートなど、いかなる文章であろうとそれは自己表現である。自らを他者に理解してもらおうとする行為は常に困難をともなう。そこで本講座では、日本語による文章表現の基本から始め、単文作成やレポートの添削等を通し、あらためて自らが文章を書くという行為を見つめ直してほしい。そして、大学の授業で必須となるレポートや論文の書き方に役立てられるよう、語彙力の拡充、日本語の基礎的文法の理解、テーマを設定し構成を組み立てられるようになる、といった三点の習熟を到達目標とする。

〔授業の概要〕

文章を書く行為は、ボタンやキーボードなどを操作し、既存の媒体によって用意されたデジタルの文字を利用する行為へと移行しつつある。この行為は、絵や記号を用い、極めて簡易に書き手の感情や意図を表現しようとする。だが便利である一方で、語彙力の低下や基礎的な文法の知識不足を招き、さらには公と私との差異までをも崩壊させてしまったかにも見える。このような根本的なコミュニケーションの問題を視野に入れつつ、文章力の向上を目指すため、全15回の前半では、漢字・慣用表現等の語彙、基礎的な日本語の文法、常体による文章表現などの課題を適宜行い、後半は、特定のテーマに基づく小レポートを作成し、その添削を通して効果的かつ実用的な文章表現を学習する。また、ただ書くだけではなく、他者の文章を読むことも重視したい。そこから意見交換を経て、文章による自己表現を深めてほしい。

〔授業計画〕

【第１回】ガイダンス（本講座の目的・概要など）
【第２回】文章表現の基礎（１）
【第３回】文章表現の基礎（２）
【第４回】文章表現の基礎（３）
【第５回】文章表現の基礎（４）
【第６回】文章表現の基礎（５）
【第７回】文章表現の基礎（６）
【第８回】レポート・論文作成の方法（１）
【第９回】レポート・論文作成の方法（２）
【第10回】レポート・論文作成の方法（３）
【第11回】レポート・論文作成の方法（４）
【第12回】レポート・論文作成の方法（５）
【第13回】レポート・論文作成の方法（６）
【第14回】まとめ（１）
【第15回】まとめ（２）

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

授業への出席および積極的な参加（30％）と課題の提出（70％）によって総合的に評価する。

〔テキスト〕

授業ごとにプリントを配布する。

〔参考書・参考資料等〕

川村二郎＋朝日新聞レッツ編集部編『炎の作文塾』（朝日文庫）
大野晋『日本語練習帳』（岩波新書）

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会人基礎力演習	1	必修	1年　前期	演習	兼任講師　清水 淳子

〔授業の到達目標及びテーマ〕

(授業の到達目標およびテーマ)

1．社会人と学生の違いを認識し、基本的な心得を「行動」で表すことができるようになる。
2．実習先、就職活動、就職後の職場で求められる「ビジネスマナー」を習得・体得する。
3．社会人としての常識、正確で安全な仕事につながる「仕事の基本」を習得する。

〔授業の概要〕

講義と演習を通して、「社会人基礎力」「ビジネスマナー＆スキル」を習得・体得します。

〔授業計画〕

1回　授業の目標と内容、社会＆社会人とは、ルールの目的と身だしなみ等の受講ルール
2回　社会人基礎力とは、自己認識による行動改革のテーマと課題設定、目標管理の基本
3回　社会人としての心構え、社会人に求められる序列と行動、タイムマネジメント（1）
4回　タイムマネジメント（2）、セルフチェックとインプレッションマネジメント
5回　社会人としてのエチケット、ビジネスマナートレーニング
6回　職場におけるコミュニケーションの基本、チームワークとは
7回　言葉遣いと敬語、接遇用語、接遇表現
8回　敬語テスト、命令・指示の受け方と報告・連絡・相談の仕方（1）重要性とポイント
9回　命令・指示の受け方と報告の仕方（2）ワーク
10回　電話応対（1）基本的なポイントと留意点、電話の受け方・取り次ぎ方
11回　電話応対（2）取り次ぎ方の基本、ケース別応対要領、電話のかけ方
12回　来客応対のマナー
13回　訪問のマナー
14回　会議の知識、ビジネス文書（社内・社外・社交）、文書の取り扱い、ファイリング
15回　おつきあいのマナー、まとめと総括

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

研修のルール（社会人のルール）の遵守・受講態度50％、試験での成績50％で評価

〔テキスト〕

プリントを随時配布する他、生活技術教育研究会『保育・福祉専門職をめざす学習の基礎－講義・実習・生活のマナーを学ぶ』（ななみ書房）を使用します。

〔参考書・参考資料等〕

（財）実務技能検定協会編／早稲田教育出版『秘書検定　集中講義２級』

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

・社会人に求められる「行動」は、簡単に身につくものではありません。この授業で学ぶことを学生生活の中で「習慣」し、実習先、就職活動、卒業後の職場において必要とされる人財となりましょう。また、「オン・オフ」の切り替え方を学び、充実した人生に！
・初回と、講師より指示のある日はスーツ着用で受講していただき、以外は保育・福祉に従事する服装で受講していただきます。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報基礎演習Ⅰ	1	必修	1年　前期	演習	今井 紀江

〔授業の到達目標及びテーマ〕

現在、幼稚園、保育園、教育施設において、お便りをはじめとした文書は、多くがパソコンを使用したものとなっています。また、研修・研究会レポート作成、園内事務、公文書作成はワードの応用操作を使用しての資料作成能力が必須となっています。

パソコンを使用し、課題に即して的確に意思決定を行い、結果を表現できる事を到達目標とします。

また、インターネットを通しての文書の送受信も日常的に行われるようになってきています。インターネットの基本、安全性などについても、理解した上で使いこなせるようにします。

〔授業の概要〕

パソコンを使用し、Windowsの基本構成、指定形式による文書作成方、インターネットの基本、著作権、電子メールの利用方法、正しい日本語で、図やグラフを挿入した書類作成方法を学習します。

なお、復習をしないと授業にはついていくことができません。かならず復習をしてください。

〔授業計画〕

1．Windowsの基本と文字入力
2．情報の利用・活用・表現力
3．基本文章入力変換校正方法
4．文書の印刷・表の作成と印刷
5．１回目チェックテスト
6．文章表現・作成方法
7．画像を使用した基本的な文章構成方法
8．演習問題によるレベルチェック
9．案内文書の作成、インデント・タブ設定
10．２回目チェックテスト
11．ワードアートを利用した文章構成方法
12．ビジネス文書の作成方法
13．小論文の構成方法
14．演習問題によるレベルチェック
15．総合問題演習による文書作成

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

・実技試験およびレポート提出　50％
・授業に対する意欲態度　50％

〔テキスト〕

・『30時間アカデミック　Windows7対応　情報リテラシーOffice2010』（実務出版）（情報基礎演習Ⅱと共通）
・『情報リテラシーパーフェクトブック　課題集』（ウィネット）（情報基礎演習Ⅱと共通）

〔参考書・参考資料等〕

・リムーバルディスク（学校指定のもの）
・『伝える力がつけば変わる情報表現力』（noa出版）

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

・タイピングに不安がある学生は、授業時間以外の時間、積極的にタイピング練習を行ってください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報基礎演習Ⅱ	1	選択 (幼稚園必修)	1年　後期	演習	今井 紀江

〔授業の到達目標及びテーマ〕

幼児教育の現場では、名簿、連絡表など日常的に使用しなければならい表の作成や、予定表、予算書、計算などの応用操作能力が必要となる書類等の作成スキルも重要になります。表計算ソフト、Excelを使用し、表計算、簡単なデータベースの作成ができるよう、演習を通し、基本操作能力だけでなく、実務能力を身につけます。

〔授業の概要〕

Excelの基本操作から応用操作まで、反復演習を繰り返しながら確実に学習していきます。作成する表や資料は、机上で理論として納得しながら、演習を行います。

なお、復習をしないと授業についていくことができません。かならず復習をしてください。

〔授業計画〕

1．Excelの基本とデータ編集
2．文字や数値の入力と計算
3．計算式と数式について
4．絶対参照と相対参照
5．書式設定・表スタイルの設定、条件付き書式
6．1回目チェックテスト
7．グラフの作成
8．演習問題によるレベルチェックテスト
9．データ分析とシートの活用
10．2回目チェックテスト
11．関数1
12．関数2
13．会員リストの作成
14．会員リストの応用
15．演習問題による総合演習

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

・課題提出および試験　50％
・授業意欲・態度　50％

〔テキスト〕

・『30時間アカデミック　Windows7対応　情報リテラシーOffice2010』（実務出版）（情報基礎演習Ⅰと共通）
・『繰り返して慣れる!完全マスター Excel2010　練習問題全353題』（noa出版）

〔参考書・参考資料等〕

・リムーバルディスク（学校指定のもの以外使用不可）
・『情報リテラシーパーフェクトブック　課題集』（ウィネット）（情報基礎演習Ⅱと共通）

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

・授業の内容を復習し、各章末問題は必ず各自勉強しておいてください。
・課題は必ずリムーバルディスクに保存して下さい。
・授業中、私語および授業以外のパソコン操作は退席および欠席扱いとなります。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
生涯スポーツ	1	必修	1年　前期	実技	兼任講師　三浦　弘

〔授業の到達目標及びテーマ〕

1．生涯にわたり健康な生活を送るために、身体と脳を健康に保つ事は欠かす事が出来ない。そのために必要な知識やスポーツ技能を高める事を目的とする。
2．スポーツや運動を通して、人と関わりながら身体を動かす楽しさを体験する。

〔授業の概要〕

1．生涯を通して健康を維持するためには、日常的に運動を継続する事が必要だが、継続的に運動をする事は困難である。そこで、継続率を向上させるために有用な仲間意識を高める運動を実際に行う。
2．短期記憶・作業脳・判断・注意・抑制などに代表される高次認知機能を取り入れたゲームで、幼児から高齢者まで楽しめる運動やゲームを実際に行う。
3．持久力・筋力・柔軟性・バランス能力等の向上を目的とした運動を楽しく実践し、生活習慣病の予防や幼児教育につながる運動プログラムを開発出来る知識を養う。

〔授業計画〕

第1回　生涯スポーツの定義と年齢ごとの身体レベルについて
第2回　見知らぬ人同士が仲良くなるためのコミュニケーションゲーム
第3回　信頼関係を構築するためのゲーム
第4回　相手の名前を覚えて仲間づくりを促進するゲーム
第5回　ボールを使ってバランス感覚を鍛えるゲーム
第6回　グループで協力して解決するゲーム
第7回　競争的な要素を取り入れたゲーム
第8回　記憶力を鍛えるゲーム
第9回　高齢者の転倒予防につながるゲーム
第10回　周囲の様子をみて戦略をたてる鬼ごっこ
第11回　手足をリズム等に合わせて動かすゲーム1
第12回　手足をリズム等に合わせて動かすゲーム2
第13回　幼児から高齢者まで，高次脳機能を向上させる運動やゲーム
第14回　持久力・筋力・柔軟性・バランス能力等を向上させる運動1
第15回　持久力・筋力・柔軟性・バランス能力等を向上させる運動2

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

全講義終了後，最終レポートの提出
授業への取り組み　40%
技能の向上　20%
協力度　40%

〔テキスト〕

なし

〔参考書・参考資料等〕

必要に応じ、授業時に資料を配布

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

この授業は実技がメインになります。楽しみながら運動を活用する方法についてお伝えします。

授業に参加する際は、運動の出来る服装とシューズを準備して下さい。夏期は、水分補給用の飲み物と汗ふき用のタオルの持参を勧めます。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保健体育	2	選択 (幼・保必修)	2年　後期	講義	兼任講師　三浦　弘

〔授業の到達目標及びテーマ〕

1．自身の生活習慣を振り返り、良い習慣や悪い習慣を洗い出す。悪い習慣を続けていくと、自身の身体や心、健康がどのような影響を受けるのかを理解する。
2．個人の健康および社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。
3．ストレスの対処には自分自身で行える方法がさまざまあり、自分だけで解決できない場合は専門家による相談のあることを学習する。
4．ストレッチングにより、身体の柔軟性を向上させる。

〔授業の概要〕

1．現代社会における健康の成立要因や条件について学ぶ。
2．ストレスから心や体を守るための、ストレスコントロールについて学ぶ。
3．生涯健康な身体であるために、身体をつくるための基本について学ぶ。
4．加齢に伴う身体特性の変化を、生活習慣や運動と関連付けて学ぶ。

〔授業計画〕

第1回　健康に生きるための生活行動と生活習慣病の関係
第2回　日常生活の活動の確認，活動強度と健康の関係について
第3回　飲酒が生体に与える影響と社会生活
第4回　喫煙が生体に与える影響と社会生活
第5回　身近にあふれる薬物と薬品が私たちに与える影響について
第6回　人間の欲求と，欲求不満によるストレスについて
第7回　欲求不満から生じる不安や緊張・悩みに対する適応機制について
第8回　ストレスを解消するために自分でとることのできる対処法について
第9回　体ほぐしの考え方と実践
第10回　加齢に伴う心身の形態や機能の変化について
第11回　脳を知る・脳を鍛える
第12回　生化学的にみた運動と体力について
第13回　体力トレーニングの目的と方法（1）
第14回　体力トレーニングの目的と方法（2）
第15回　運動によるけがや病気の予防について

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

1．毎時間後、疑問点や感想の提出。
2．全講義終了後、最終レポートの提出。
授業への取り組み40%，毎時間の感想文の内容20%，最終レポートの内容40%

〔テキスト〕

『現代保健体育改訂版』大修館

〔参考書・参考資料等〕

なし

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

健康に対する意識を高められるよう、また、適切な健康行動をとっていくにはどうしたらよいか理解できるよう、ディスカッションやロールプレイング、ストレッチングなどの実際の生活局面に即した楽しい授業展開にしたいと思います。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本国憲法	2	選択 (幼稚園必修)	2年　後期	講義	兼任講師　赤川　理

〔授業の到達目標及びテーマ〕

1．立憲主義という考え方に対する理解を深めること
2．日本国憲法についての基礎的な知識を正しく修得すること
3．法的なものの見方や考え方を身につけること

〔授業の概要〕

講義を中心とする。しかし、テーマによっては、受講生の皆さんとの討論も試みたいと思っている。

また、現代の日本社会の具体的な問題も取り上げながら進める予定である。

〔授業計画〕

1　ガイダンス　日本国憲法の誕生　基本原理
2　権利の主体
3　生命・自由・幸福追求権
4　法の下の平等
5　精神的自由（1）
6　精神的自由（2）
7　経済的自由　通信の秘密・住居の不可侵　法定手続の保障・人身の自由
8　社会権
9　参政権　国務請求権　国民の義務
10　立法
11　行政
12　司法
13　天皇　財政
14　地方自治　憲法改正
15　まとめ

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

期末試験　70%、平常点　30%で評価する。

〔テキスト〕

初宿正典　大沢秀介　高橋正俊　常本照樹　高井裕之編著『目で見る憲法【第4版】』（有斐閣）2011年

〔参考書・参考資料等〕

安西文雄　巻美矢紀　宍戸常寿著『憲法学読本』（有斐閣）2011年

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

授業には、テキストを必ず持参して下さい。
予習・復習が必要です。
授業を批判的に聞いて下さい。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
Oral English Ⅰ・Ⅱ	各1	Ⅰ－必修 Ⅱ－選択	1年 Ⅰ－前期 Ⅱ－後期	演習	兼任講師 北原 アンドレア

〔授業の到達目標及びテーマ〕

This course aims to give students a good base in English oral communication. Students will feel confident and comfortable using English in a variety of different situations. They will be able to communicate ideas to others, especially children, in a practical and simple way.

〔授業の概要〕

The course will use a textbook to build basic structures, giving students confidence to express themselves. Extra material in the form of storyboards, music, games and picture books will be used throughout the course to give students tools to use themselves as teachers. The emphasis will be on communication in English that is fun to use and learn.

〔授業計画〕

The course will follow the textbook in sequence, with the addition of extra material appropriate to the theme.

Wk.1 Orientation/Self Introduction

Wk.2- Wk.14 Progressive Work through the Text Book

Also including extra activities and child related games.

Wk.15 Review

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

Students will be assessed on their work throughout the semester and their attendace.

〔テキスト〕

Side by Side Student Book 1

Side by Side Student Workbook

〔参考書・参考資料等〕

Students must always bring a dictionary to class.

Other material will be provided by the teacher.

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
自分を知る	1	選択	1年　前期	演習	兼任講師　小濱 知実

〔授業の到達目標及びテーマ〕

「わたしを大切にする」「自分に自信を持つ」「人間関係形成」「社会に向き合う力」を養うことを目標としています。そのために、コミュニケーション力（「考える」「聴く」「話す」「情報収集・識別」）を身につけながら、社会、組織（チーム）、他者及び自分自身への敏感な視点を養います。

〔授業の概要〕

この授業では、「個の尊重（自分を大事にする・相手を大事にする）、価値観の異なる他人と協調とは何か」を気付くことを通して、個人的な問題を社会的な問題として、また、社会的な問題を個人的な問題として捉える広い視野を身につけます。

講義とワークショップで進めます。「学ぶ」「考える」「気づく」「実践する」ことの繰り返しです。ワークショップは、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、ブレーンストーミング等、様々な演習を通して自分の考えを引き出しながら、「自分」や「社会」への新しい発見ができることでしょう。

〔授業計画〕

第　1　回　オリエンテーション　◆アイスブレイク　◆「目標管理」と「行動計画」
第　2　回　「わたしの取扱説明書」と「わたしの未来年表」をつくろう
第　3　回　互いを知る①　傾聴のロールプレイ
第　4　回　互いを知る②
　◆観察する・傾聴する・共感する・質問する　◆インタビュー実践と記事編集
第　5　回　フレームワーク「アイディア抽出」
第　6　回　プレゼンの心得と信頼関係
第　7　回　組織における人間関係
　◆協調関係と競争関係　◆チームワーク　◆リーダーシップ・フォロワーシップ
第８～10回　プレゼンテーション
　◆観察する・質問する　◆傾聴　◆共感　◆ホウ・レン・ソウ
　◆企画づくり、“見える”化する資料の作り方　◆プレゼンテーションの心得
第11～12回　ディスカッションと模擬会議、ファシリテーション
　◆ディスカッションのパターンと工程設計　◆ロジカルシンキング　◆問題解決
第13～14回　働き方・暮らし方を考える
　◆社会人になるということ　◆正規労働と非正規労働の長短について
第　15　回　「なりたいわたしに近づくために！」
　◆タイムマネジメント　◆ワーク・ライフ・マネジメント　◆自立(自律)と共生

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

ワークショップへの参加意欲：30％／レポート：30％／スピーチ、発表：30％、自己評価：10％

〔テキスト〕

レジュメ・ワークシートを配布します。

〔参考書・参考資料等〕

なし

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

ただ出席するだけでなく、自律的な参画・積極的な取り組みをしてください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
環境問題演習	1	選択	1年　後期	演習	森本 健一

〔授業の到達目標及びテーマ〕

Think Globally, Act Locally（地球的視野を持ち、地域で行動する）略してGlocallyがテーマである。各人が環境意識の変化を具体的行動に結びつけるために、基礎用語に習熟し情報収集能力を高めると同時に、自発的にライフスタイルを点検・変革し、発表できる水準を目指してもらう。

〔授業の概要〕

日常生活における環境問題について主として、エネルギーとゴミ問題から考え、私たちのライフスタイルや企業活動の環境保全活動について調査を行うほか、各自の実践活動報告を行ってもらう。環境問題に関する用語理解を深めるとともに、ビデオ作品、地域環境マップ、絵本製作をはじめ廃油キャンドルや風車などエコに関する小物の制作をする。

〔授業計画〕

1　ガイダンス
2　学校林整備１（雨天：環境問題重要語句学習１）
3　学校林整備２（雨天：環境問題重要語句学習２）
4　新聞記事に見る環境問題
5　ライフスタイルと環境問題（スローライフとコンビニ、ファーストフード）
6　100円ショップ、フェアトレードについて
7　環境にやさしい暮らし方（おばあちゃんの知恵に学ぶ）
8　エコロジー・テスト
9　廃油キャンドル制作
10　アルミ缶でまわり灯篭、ペットボトル風車制作
11　落ち葉利用技術
12　自然エネルギー・省エネ技術について
13　ＣＳＲ　レポート（企業環境報告書）の読み方
14　環境問題実践活動報告１
15　環境問題実践活動報告２

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

具体的実践行動（50％）、プレゼンテーション（20％）、毎授業時のまとめ・コメント（30％）

〔テキスト〕

特になし。資料を配布する。

〔参考書・参考資料等〕

辻　信一『スロー快楽主義宣言』（集英社）
河村 康文『地球環境が目で見てわかる科学実験』（築地書館）
田中 優他『Eco・エコ　省エネゲーム』（合同出版）
正岡秀三他『地球環境がわかる』（技術評論社）

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

環境問題を行動しながら、考える体験重視の授業であるので、意欲的に、創造性を発揮し、成果を上げてほしい。天候が良ければ、野外に出ることも多いので、活動的な服装で参加すること。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
ボランティア活動	1	選択	1年　前期	演習	西澤 有喜子 豊永　誠

〔授業の到達目標及びテーマ〕

相次ぐ大災害を機に地域の『絆』の力が改めてとらえ直されています。この講義では「ボランティア活動とその成果」を通じて、自分の中に潜在している「他人と関わり合って生きる力」を再認識し高めていきます。様々な人々との出会いから生まれる「絆」を実感しつつ、真摯な感覚と行動力をボランティア活動の実践を通じて高めていきましょう。

〔授業の概要〕

・「自分にできること」に着眼して、日々の生活や地域活動の中において「やってみたい」と思うボランティア活動を探り、深めていきます。
・「ボランティア活動とは何か」といった講義中心ではなく実際に活動していく中で行うワークが主です。
・実際には先輩方が苦労して良い関係を培ってきた活動基盤のある辰野町周辺または各自の帰省先周辺での活動となります。
・「誰かがお膳立てしてくれる活動をこなせば良い」という授業ではありませんので、自分で組み立て、交渉し、積極的に楽しみながら活動していけるよう、互いに力を貸し合って進めていきましょう。

〔授業計画〕

1　アイスブレイク・ガイダンス　～自己紹介・ボランティア活動の意義とねらい～
2　ボランティア活動の実際を知ろう ～課題発見のきっかけとして辰野ボランティアセンターの活動を知る～
3　自分のやってみたいボランティア活動は何か考えよう　～グループワーク～
4　自分にできることは何か見つめ、活動計画を立てよう　～ボランティア活動の計画・設計～
5　活動計画発表（プレゼンテーション）　～他の人の活動計画を知り、互いに補完する～
6　実際のフィールドワーク①
7　〃　②
8　〃　③
9　途中経過の中間報告会（プレゼンテーション）～自分の強み・弱みを認識しつつ活動を深める～
10　実際のフィールドワーク④
11　〃　⑤
12　〃　⑥
13　活動報告書作成と実践活動最終報告会へのオリエンテーション
14　活動報告会準備・まとめ
15　実践活動最終報告会

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

講義・フィールドワークでの実践意欲・・・50％
プレゼンテーション・・・20％
最終報告会とレポート・・30％

〔テキスト〕

適宜、参考資料・ワークシートを用意します。

〔参考書・参考資料等〕

個々のテーマに参考となる内容の資料を適宜用意します。

〔学生へのメッセージ・履修上の留意点他〕

・授業は講義と実際のフィールドワークで進めますので出欠確認は大切となります。
理由なく講義・フィールドワークを欠席する場合はその時点で履修放棄となります。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育者論	2	必修	2年　後期	講義	林　若子

〔授業の到達目標及びテーマ〕

1．保育者の職務全般の内容および保育の倫理を理解する。
2．保育者に求められる専門性とそれを高めるためにどうすればよいかを理解する。
3．保育者の地位・専門職制の現状を知り、あり方を考える。

〔授業の概要〕

1．さまざまな科目および実習での体験や学習を踏まえて、保育者の職務全体や専門性について捉えなおす。
2．就職活動とも関連させながら、保育者の社会的地位や労働条件について考える。
3．各々が目指す保育者像を描き、それに近づくために学習する。

〔授業計画〕

第1回　はじめに
第2回　保育者の責務と倫理
第3回　子どもの権利と保育者の役割　①
第4回　〃　②
第5回　保育職場の現状と保育者の地位①
第6回　〃　②
第7回　地域・社会における保育者の役割
第8回　保育者のチームワーク・協働
第9回　保育者の専門性とはなにか
第10回　専門性を高めるために　①
第11回　〃　②
第12回　保育者像の探求　①
第13回　〃　②
第14回　〃　③
第15回　まとめ

〔学生に対する評価（成績評価の基準・方法）〕

授業時間内での小レポートおよび定期試験により評価する

〔テキスト〕

柏女霊峰監修　全国保育士会編『改定版　全国保育士会倫理綱領ガイドブック』（全国社会福祉協議会）
伊藤亮子、林若子、小山道雄『もっと考えて!!保育者の専門性と労働条件』（新読書社）